

2023年冬～春 企画展
プレスリリース

夢二が描いた

心ときめく花と暮らし



1.春（『婦人グラフ』表紙）1926年

2023.1.6 Fri » 3.26 Sun

竹久夢二美術館

こあいさつ

日本では古くから、四季折々の花が生活に喜びや潤いを与え、芸術作品の主題として扱われてきました。

画家・詩人として活躍した竹久夢二（1884-1934）も、暮らしの中の花から着想を得て、絵画やデザイン、詩歌などにおいて幅広く表現しました。夢二が描いた花は可憐な姿で鑑賞者を癒してくれます。さらに自身の心情と花の印象が結びついて生まれた詩は、時に香りや触感までも思い出させ、花にまつわる記憶を呼び起こしてくれます。また図案化された花は日用品を装飾して暮らしを彩り、その洗練されたデザインは現代でも高い評価を得ています。

本展では、花をテーマにした夢二作品に加え、明治後期～昭和初期の雑誌より、花を楽しむ文化を展示紹介します。

竹久夢二

たけひさ ゆめじ

明治 17 年-昭和 9 年
(1884-1934)

岡山県出身。雑誌投稿から明治 38 年(1905)末にデビューした。コマ絵や挿絵を数多く描き、センチメンタルな夢二式美人画を生み出した。画壇に属さず、日本画・水彩・木版画等で日本の郷愁と西欧のモダニズムを自在に表現した。また、詩や童謡も創作し、生活デザインの分野にも力を注いだ。



展示内容

- ◆花と暮らし 花と子どもたち／装飾と花(書籍・楽譜表紙絵) 装いに見る花／少女雑誌の花文化／明治～昭和 花を愛でる暮らし
- ◆花に寄せた詩
- ◆花の図案と郵便
- ◆夢二が愛した 花咲く春
- ◆草花を見つめ、描く デッサンや日記帳、絵手本より

花に寄せた詩より

なにかして
ふつと涙のうかみいづ
スウイトビーをつまむとせしに
【1915 年 絵入判編「小夜曲」より】

まてどくらせどこぬひとを
宵待草のやるせなさ
こよひは月もでぬそうな
【1916 年 セノオ楽譜「宵待草」より】

明治後期～昭和初期の
夢二作品が掲載された雑誌に、
当時の人々の草花を楽しむ
生活スタイルが見られます。



「花とレジャー」
「日々を飾る」
「流行の花」のテーマで
写真や記事を紹介します。



展示総数 約 240 点

※展示替えを含む
展示作品総数

出展作品(広報図版)

広報図版をご使用希望の場合は
「画像使用申込書」に必要事項を記載の上、
FAX またはメールで当館にお送りください。



2.セノオ楽譜「ソルエチの歌」
1924 年

セノオ楽譜シリーズは、曲のイメージに合わせて夢二が表紙絵を手掛け、植物モチーフも多く装飾に使用されました。



3.「光ちゃん」表紙(高信峽水・著)
1913 年

装幀家としても 300 冊を超える仕事を残した夢二。草花を描いた書籍も多く、洗練されたデザインが楽しめます。



4.手製半襟の図案 1915 年

「手製半襟の図案」は、夢二による図案を元にして半襟を刺繍する目的で、雑誌の付録になりました。草花や小鳥がアル・ヌーヴォー調にデザインされています。



5.絵封筒 大正期

和紙に木版で刷られた絵封筒は、夢二による植物模様が多数残されています。また絵葉書や便箋の図案も手掛け、個性や個人の感情が尊重され始めた時代に、人々が心を交わし合う手紙類のデザインも草花で飾りました。



6.兄サンハ笛ラフイデマラス。
(『子供之友』)1914 年

野辺に遊ぶ子供と傍らに咲く花の光景は、ノスタルジックな趣に満ちています。夢二による童画も、草花が彩りを添えました。



7.よき朝(『少女画報』口絵)
1913 年

夢二は日本古来の野の花を好む一方で、明治以降に浸透した洋花も描きました。「よき朝」では、被布コートの桜草の柄と、鉢植えのスノードロップが同色でまとめられています。



8.薔薇の露(『女学生』表紙)1923 年
現代のティーン世代の少女が愛読した雑誌『女学生』。夢二が描く女性性、ファッションも注目されて、着こなしの手本にもなりました。



9.舞妓 大正期
夢二の美人画は、描写された表情やポーズに加え、その装いも関心を集めました。桜・梅・菊を中心に、装いに描かれた花の意匠を紹介합니다。



10.王春花 昭和初期
梅枝と水仙が飾られた竹製の籠と、その手前に仏手柑を描いた夢二晩年の日本画。



※半月～1 か月間で
展示替えを行います。

見どころ

- ① 2022 年 2 月に発売された切手「ライフ・花―竹久夢二の花図案―」に使用された作品と、郵便にまつわる作品を展示します。レトロでかわいい色柄が魅力です。
- ② 花を描いた絵画やデザイン、あわせて花に寄せた詩も展示し、夢二の幅広い表現をご覧いただきます。
- ③ スケッチブックと日記より、公開する機会の少ない、草花が描かれたページを続々と展示します。

夢二が描いた 心ときめく花と暮らし

竹久夢二美術館

〒113-0032

東京都文京区弥生 2-4-2

03-5689-0462

2023(令和 5)年 1 月 6 日(金)~3 月 26 日(日)

月曜日

ただし、1 月 10 日(月・祝)は開館、
1 月 11 日(火)は休館。

午前 10 時~午後 5 時

(入館は 4 時半までをお願いします。)

新型コロナウイルスの影響により、
休館日・開館時間に変更になる場合がございます。

一般 1,000 円 大・高生 900 円

中・小生 500 円

弥生美術館と 2 館併せてご覧頂けます。

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩 7 分
JR 上野駅 公園口より徒歩 20 分

1/21(土)、2/11(土・祝)、3/18(土) 午後 2 時より



平成 2 年(1990)開館。都内で夢二作品を鑑賞できる唯一の美術館です。館が建つ東京・本郷は、夢二が滞在した〈菊富士ホテル〉がかつてあり、また最愛の女性、笠井彦乃と逢瀬を重ねた場所で、今なお昔の風情を留めて静けさと木々の緑に包まれています。

展覧会についてのお問い合わせは
竹久夢二美術館 学芸員 徳重美佳 までお願いいたします。

Tel 03-5689-0462 Fax 03-3812-0699
HP <https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>



11. チラシ画像

1F ミュージアムショップにて、
夢二のデザインを使った各種雑貨・文具を
取り揃えております。



夢二 絵葉書
各 ¥120(税込)



NEW!



大風呂敷
各種 ¥2200
(税込)

展覧会出品の
12 柄×2 種類で
1 月上旬発売予定
お手紙や
プレゼントの飾りにも
ご使用いただけます

花のテーマにちなみ、桜の葉と白餡を使用したパウンドケーキと、夢二のすずらのカット絵が描かれたカプチーノを期間限定でご提供します。ひと足先に春の到来を感じられるスイーツを温かいお飲み物と一緒に楽しみください。

FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 徳重 行

夢二が描いた 心ときめく花と暮らし

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）/番組名	
発売/放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をつけてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください。）											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	

読者プレゼント招待券（5組10名様）	希望する	希望しない
--------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールで画像データをお送りいたします。

ご希望の場合には、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 までお送りください。また美術館写真（外観/展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様）をご用意いたします。この用紙にてお申込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載紙（誌）をお送りくださいますようお願い申し上げます。

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-2 竹久夢二美術館 担当 徳重 宛